

博士課程学生のための支援事業・ 博士支援制度の概要

博士人材育成制度研究小委員会 委員長
東京大学 農学生命科学研究科
生物・環境工学専攻 吉田修一郎

内 容

- ◇博士（後期）課程在学生の経済支援の現況
- ◇農業農村整備技術に関する博士課程学生への調査研究支援事業（NN学会）のご案内

◇博士（後期）課程在学生の 経済支援の現況



第6期科学技術・イノベーション基本計画 (令和3年3月26日閣議決定)

2. 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化

(1) 多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築

【科学技術・イノベーション政策において目指す主要な数値目標】

生活費相当額程度を受給する博士後期課程学生；優秀な博士後期課程学生の処遇向上に向けて、2025年度までに、生活費相当額を受給する博士後期課程学生を従来の3倍に増加（修士課程からの進学者数の約7割に相当）。また、将来的に、希望する優秀な博士後期課程学生全てが生活費相当額を受給。

日本学術振興会（JSPS）特別研究員

国際卓越大学院プログラム

科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業

次世代研究者挑戦的研究プログラム

日本学生支援機構（JASSO）奨学金制度

ジョブ型支援 TA、OCJ

日本学術振興会（JSPS）特別研究員 DC1, DC2による経済支援

2022年度採用予定数 DC1 700名、DC2 1100名程度

c.f. 2018年度の文科省統計では社会人博士を除いた博士入学者は8,535名

研究奨励金 20万円/月

+ 特別研究員奨励費（研究用経費）150万円/年

✓ JASSOの奨学金は、辞退する必要あり。

その他、国費を原資とする奨学金の類との重複受給は不可

✓ 研究奨励**金**は税法上は給与

✓ 研究奨励**費**は科研費と同種（研究機関で経理）

その他の経済支援の例（東京大学の場合）

World-leading Innovative Graduate Study ProgramS

○国際卓越大学院プログラム **WINGS**

（全学で**18**プログラム　うち**3**件が文科省の**WISE**プログラム）

研究科等が連携して構築した修博一貫（又は学修博一貫）の学位プログラム

国際卓越大学院人文社会系研究科次世代育成プログラム、教育研究創発、先端ビジネスロー、先端経済、グローバル・スタディーズ・イニシアティブ、先進基礎科学推進、フォトンサイエンス、グローバルサイエンス、宇宙地球フロンティア、変革を駆動する先端物理・数学プログラム、未来社会協創、統合物質・情報、高齢社会総合研究、**環境調和農学**、生命科学技術、数物フロンティア、プロアクティブ環境学、**知能社会**

農学生命科学研究科が参画する、
「環境調和農学国際卓越大学院」の場合

入学・修了：採用の試験が修士課程入学後にある（採用は約**10**名）。
修了には、所属する専攻の課程に加えて、別途提供される講義・実習で追加の単位を取得し、プログラムの卒業試験にも合格する必要がある。

リサーチアシスタント

経済支援：奨励金 **18**万円/月（決定後卓越RAとして雇用）

* 日本学術振興会（JSPS）特別研究員、他の高額な奨学金等に採用された場合、奨励金の支給は停止。

○東京大学博士フェローシッププログラム

(文科省科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業)
(全学で4つ)

未来社会デザインフェローシップ 25名

知能社会創造フェローシップ 20名

量子科学技術フェローシップ 30名

統合マテリアル科学キャリア接続型フェローシップ 35名

研究専念支援金 (奨励金) : 18万円/月

他の制度との重複は認められない。

それぞれ卓越大学院などのプログラムとリンクした活動が必要

○次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING) NEW

全国の現在博士課程に在籍する6000人に研究奨励金220万円/年
を支給する新たなプログラム (JST) 3~5年間 その後は大学
ファンドの運用益を想定

本学では、600名程度を想定

テーマは、グリーントランスフォーメーション

前述のWINGSなどをベースに、博士支援制度全体の整理も行う。

東大では、これにより、博士学生の支援率 (同水準の経済支援) を
35→49%に引き上げるとしている。

○博士課程対象の日本学生支援機構（JASSO）の奨学金制度と（特に優れた業績による）返還免除制度とその内定制度

奨学金制度の概要

給付月額 8万円か12.2万円（96万～146万/年）

家計基準 本人の収入が340万円（一種：無利子）
718万円（二種：有利子）

返還免除制度（第1種のみ対象）

○在学中（貸与期間）に特に優れた業績を挙げた者 大学から推薦、JASSOの審査委員会で決定

○博士進学時の内定制度による返還免除枠の拡充（H30進学者から）
免除者数率30%→45%

令和2年度実績（全国） 貸与終了数	免除 申請数	免除 決定者数	うち 全額免除者数	うち 半額免除者数
1,935	893	827	364	463

令和元年度内定者実績 231（免除者の15%相当）

（全額・半額免除は、内定時ではなく終了時に決定）

現況の支援制度の課題

文科省や大学では、制度の充実が図られつつはあるが、支援率は、50%に満たない。

文科省や大学の新たな支援制度は、経済支援だけへの応募ではなく、教育プログラムへの参加により、支援も受けられるような形になっており、大学が掲げる「テーマ」に沿った学習や研究が課せられることが多い。（必ずしもデメリットではないが、単なる経済支援ではなく、教育プログラムと入れ子になっている。）

依然として個人・分野間での競争性が高く、確実に支援が受けられるかどうかもわからないような状況では、安心して博士課程進学を決められない。

◇農業農村整備技術に関する博士課程
学生への調査研究支援事業（NN学会）

支援事業の背景

土地改良長期計画（つまり施策）の実現のための農業農村整備に関する技術開発計画（つまり研究）で提示される

「農業・農村が目指すべき姿」は、・・・



- (1) スマート農業の推進による生産性・持続性の高い農業
- (2) 誰もが参入できる多様な農業
- (3) 中山間地域の特性を生かした暮らしとなりわいが持続的に営まれる農村
- (4) 地域資源を活用した快適で利便性の高い自立分散型の農村
- (5) デジタル技術の活用により管理・更新が省力化・効率化された農業水利施設が支える農業
- (6) 防災・減災及び災害時から災害復旧まで迅速に対応できる安全な農村

ところが、これらの研究課題に取り組む（取り組める）若い研究者が足りない！



人材の育成が喫緊の課題

そこで・・・（支援事業の目的と実施方法）

博士課程に進学して、研究にさらに取り組もうとしている人材を確保するため、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」、すなわち、**経済的な支援制度を創設**

（一財）**日本水土総合研究所**の公益目的事業である「農業農村整備事業に関する調査研究」からの委託を受けて、**農業農村工学会が研究支援を実施**

支援事業の対象者

現在、修士課程（博士前期課程）に在学している農業農村工学会の学生会員*）で、博士課程（博士後期課程）に進学予定の者

*）採用後の入会も認める

今年度の募集は、

○2022年度博士課程進学予定者（現在修士課程2年）

○2023年度博士課程進学予定者（現在修士課程1年）

（現在博士課程に在籍する者は、対象外）

募集課題数：5件／年（支給開始年度ごと）

農業農村整備に関する技術開発計画に資する研究課題を設定することが条件

（申請時に、該当する「農業・農村が目指すべき姿」（課題）を示す。）

支援の内容

✓ 経済支援

年間100万円／人・課題を支給（支払い助成金）

- ・ 研究活動

- ・ 研究活動を円滑に行うための必要不可欠な経費

*学会から学生個人の預金口座に年度当初までに振り込み。

✓ 研究支援

研究課題に適した国営事業等の研究フィールドの提供、学会が行っている学術基金や関係機関による調査研究費の支援などを実施。

✓ 就職支援*)

学会が構築する「博士人材マッチングシステム」の活用が可能。

*) 就職先を制限するものではなく、就職先の業種や専門性によって支援事業の返還を求めることはない。

他の支援制度との重複受給制限

JSPS特別研究員（DC1）

併願は可、採択された場合には、重複受給は不可
（本支援制度の対象から外れる）

他の奨学金や助成制度による支援を受けている場合

応募は原則可能。ただし、この支援事業に採用された場合に、現在受給している他の支援金を引き続き受け取ることが可能かどうかは、ケースバイケース。→要確認



その他受給上の注意と義務

- ✓途中で事業の趣旨に沿わない研究課題に変更した場合は、支援を中止。
- ✓留年した場合でも支援期間は延長せず。
- ✓留学や休学等で当該課程での活動を休止した場合は、支援を中断。
- ✓年度末に指導教員の了解を得た年間研究活動の報告書を提出。
- ✓水土総研（JIID）のアソシエイト・アドバイザー*）として、要請に基づいた「協力活動」に従事。

*）アソシエイト・アドバイザーの活動は、水土総研が開催する意見交換会での研究活動内容の報告（毎年）、調査研究発表会での研究成果の発表と意見交換、「大学生の農業農村体験研修会」への参加、協力など。日常的に頻繁に行う業務はありません。

申請方法（詳細はHPを）


学会ホームページ [「博士人材のキャリアパス」](http://www.jsidre.or.jp/career-path/)

（<http://www.jsidre.or.jp/career-path/>）より、様式1～3（Word）をダウンロードして必要事項を記入の上、メールで学会に申請

The image shows a screenshot of the JSIDRE website homepage. The browser address bar shows www.jsidre.or.jp. The page header includes the JSIDRE logo and the text "公益社団法人 農業農村工学会 THE JAPANESE SOCIETY OF IRRIGATION, DRAINAGE AND RURAL ENGINEERING". A navigation menu at the top contains links for "会員専用サイト", "CPD WEB", "学会へのご意見", and "ENGLISH". A secondary navigation bar lists various categories like "ホーム", "学会・会員", "CPD (技術者継続教育機構)", "出版物", "大会講演会", "読みのもの", "情報ボックス", "会員専用サイト", "よくあるご質問", "関連リンク", and "メールマガジン". The main content area features several articles and images, including "東大ハチ公物語" and "農地の最新排水技術 カットドレーン". On the right side, there is a vertical sidebar menu with the following items: "会員について", "高校生", "大学生コーナー", "博士人材のキャリアパス" (highlighted with an orange box and an arrow), "図書販売", "支部", "研究部会", and "検索 [-STAGE]".


募集日程

現在、修士2年の方（2022年度支給開始）



応募期間	2021年8月1日（日）～9月30日（木）
面接	2021年12月上旬
内定	2021年12月末まで

現在、修士1年の方（2023年度支給開始）



応募期間	2022年1月1日（土）～2月28日（月）
面接	2022年4月
内定	2022年5月上旬

修士課程在学中の皆さん！

これを機に、博士進学を考えませんか？

応募お待ちしております！

